

認知症の人と家族の一体的サポートプログラム 認知症関係者対象セミナー  
2022年2月8日資料

# ミーティング(出会い)のセンター 宇治

京都府宇治市  
一般財団法人宇治市福祉サービス公社  
事務局次長 川北雄一郎

## 宇治市の概況と運営法人紹介

人口 183,865人（令和3年10月1日現在） 高齢化率29.8%

地域包括支援センター 8カ所（全て委託）

認知症疾患医療センター 2カ所（府立病院、民間病院）

京都認知症総合センター 1カ所（京都府創発モデル施設 医療系社福）

\* 診療所、常設型認知症カフェ、介護サービスが一体となった施設

### 一般財団法人宇治市福祉サービス公社

平成9年3月に宇治市の100%出資により設立された、在宅福祉・保健サービスを一体的に提供し、市域の福祉の向上を目的とした事業を運営。  
現在は市内4拠点において、介護保険サービス、宇治市委託事業などを運営。



公社イメージキャラクター ぼっぼ

# 宇治市の認知症施策

## 宇治市初期認知症総合相談支援事業

(平成25年度より)

専任の認知症コーディネーターを配置し、認知症カフェの企画開催、認知症初期集中支援チーム、啓発事業、家族支援等を一体的に実施（当法人が委託を受け地域包括支援センター内に配置）



### 初期からの出会いとサポートをテーマに実施！

#### 【主な取り組み】

- ★認知症の人にやさしいまち・うじ 市長宣言（平成27年3月）
- ★宇治市認知症アクションアライアンスれもねいど（平成28年3月）
- ★認知症の人と家族の社会参加・就労支援（茶摘み・農作業）
- ★地元大学との連携による本人・家族グループミーティングの開催

## ミーティングセンターモデル事業について

- ・認知症カフェや、本人・家族の活動、グループミーティング等が定着したことで、医療との連携により診断間もない本人・家族との出会いがスムーズになってきた。
- ・一方で介護保険サービスを利用するまでの間に利用できるサービスがないこと（特に若年層）や、多様なニーズに柔軟に対応できるサービスは不足していた。
- ・不定期（季節ごと）には、本人・家族と一緒に参加できるプログラム（イベント的行事）はあるが、決まったときに定期的に集まれるプログラムがなかった。

### そんな時にミーティングセンターの調査研究のお話が！！

- ・ 2019年度の老健事業から参加
- ・ 2020年度より全国5カ所のモデル事業のひとつとして開催
- ・ 2021年度も2年目のモデル事業として継続開催

## 宇治市の プログラム について

### ・認知症カフェ一体型モデル

月1回の認知症カフェ開催日の午前中からプログラムを開催。

プログラムメニューにカフェで提供するお菓子作りや、飲み物の準備等、認知症カフェの運営や、ピアサポート活動に本人・家族が主体的に関われるようなプログラムを予定。

### しかし！

→モデル事業初年度より新型コロナウイルス感染拡大により予定していた常設型カフェの使用が不可となり、開催方法を修正して開催。

## プログラム (2021年度)

- ・午前のプログラム内容は本人・家族とのミーティングにより決定。「やりたいことを実現しよう！」
- ・午後のプログラムは基本は宇治市の認知症カフェ（れもんカフェ）と連動して行う。
- ・コロナや気象状況により、対面での開催が出来ない時はオンラインを活用して継続した。

回	開催月	会場	午前の部	午後の部
1回	8月	オンライン開催	ミーティング	れもんカフェ
2回	9月	オンライン開催	ミーティング	れもんカフェ
3回	10月	総合福祉会館	ヨガ体験	れもんカフェ
4回	11月	山城総合運動公園	テニス教室	れもんカフェ
5回	12月	京都文教大学	音楽・ニュースポーツ	講演会・交流
6回	1月	宇治市植物公園	園内散策・製作活動	れもんカフェ

## 参加者 スタッフ について

### 【参加者】

- 本人 50代男性1名 60代男性1名  
70代男性4名 女性3名
- 家族 妻 6名 夫2名
- 本人のみ参加、家族のみ参加各々1名

→元々の活動に継続参加されていた方を中心に呼びかけ  
医療機関やピアサポートの場等から紹介を受けた参加者もあり  
介護認定を受けていない方、介護保険サービスと併用されている方など様々

### 【スタッフ】

- 社会福祉士 保健師 看護師 介護福祉士  
作業療法士 専門医



モデル事業の風景



れもんカフェ  
(認知症カフェ)

- ①ミニ講演
- ②ミニコンサート
- ③カフェ交流タイム



## 本事業の効果と有用性

- 診断直後から始まる本人・家族一緒の支援
- 当事者から教えられた「仲間との出会い」の大切さ
- 介護サービス利用への不安や抵抗感をやわらげる
- 認知症になってからの本人・家族一緒の「思い出」づくり
- 専門職（支援者）も共に学び直す  
「認知症の人」ではなく、「その人」・「その人の認知症」を理解する

## 本事業の効果と有用性

### 《本人・家族にとっての効果・有用性》

★本人・家族の声をプログラムに反映させ、多様なメニューを組み合わせること  
 とで様々な事情を抱えた方の参加意欲を高めたり、参加することへの精神的  
 負担を軽減する等の効果があった。

★本人・家族同士でミーティングセンタープログラムの情報を新たな本人・家族  
 に伝え、誘い合い参加できた。（自然なピアサポート）

★プログラムをきっかけに自主的に普段の生活の中で本人・家族同士の繋がりや  
 交流の機会が生まれ、初期の不安や孤独から解放された本人・家族がいた。

### 《専門職にとっての効果・有用性》

★通常の援助関係では見ることのできない本人・家族の表情を見たり、聞くこと  
 のできない声を聴くことが出来る等、新たな気づきの場となっている。

## 全国に広がってほしい

認知症という旅を先に行く人たちからの言葉から学んだ

認知症という旅の3段階

第Ⅰ期：個として認知症に向き合う（不安・困惑・恐怖・絶望・孤独・・・）

第Ⅱ期：仲間・支援者との出会い（ピアサポート、明るい笑顔と希望）

第Ⅲ期：地域の中で生きていく（認知症と生きる技術・知恵・文化の蓄積）

ミーティングセンター(一体的支援) プログラムが全国に広がり

認知症の本人と家族にとって

認知症という旅の第Ⅰ期と第Ⅱ期の期間を出来るだけ短くし、

前向いていくことのできる、そんなきっかけになりますように。

ご静聴ありがとうございました。

---



・宇治市認知症アクションアライアンス “れもねいど”

・オフィシャルホームページ  
<https://www.ujilemonaid.com/>

・フェイスブックページ



・れもねいどLINE

